



たてわりグループ活動

副校長 入部和也

木々の緑も日に日に濃くなり、すがすがしい初夏の季節となりました。

4月よりスタートした今年度の教育活動も2ヶ月が経ち、児童は日常を取り戻しつつある学校生活を日々過ごしています。各学年でもこのコロナ禍における授業の在り方を試行錯誤しつつ学習活動を進めています。

さて、今年度も5月2日月曜日の顔合わせを経て、たてわりグループ活動である、「なかよしマイ活動」が始まりました。「なかよしマイ活動」とは、1年生から6年生までの少人数による班編成をして、様々な活動や遊びを行います。年間13回の活動を計画していて、今年も運動会において、たてわり競技にも取り組む予定です。

かつては、学校でも家に帰ってからでも、異年齢集団で遊ぶことは、どこにでもある日常的な風景でした。遊ぶことを通して、リーダーシップや思いやり、社会性、勇気、判断力、責任など、様々な態度や資質を関わりの中で学び合っていたものでした。

このような異年齢集団は、少子化の影響も相まって、一気に姿を消しました。兄弟数が減少し、地域における遊び仲間集団が減少するなかで、仲間とうまく付き合えない子ども、いわゆる社会性の低い子どもが増えてきたといわれています。したがって、子どもたちの社会性を育てる上で、学校においてたてわりグループを編成し、異年齢の子どもたちが交流する機会をつくることには大きな意義があるのです。

さらに、こうした異年齢集団活動がもつ具体的な教育的意義として、次のようなことがあげられます。

<高学年児童(4年生～6年生)にとって>

- ・リーダーシップの高まり(集団をまとめようとする責任感)
- ・自己有用感の醸成(下級生から憧れや頼られることで自分に自信をもつ)
- ・学ぶ意欲の高まり(下級生をリードし見本となるように努力する)
- ・思いやりの醸成(年齢の差を考慮して様々な配慮をする)
- ・問題解決力の醸成(下級生の意見を聞き、話合いを通して解決していく)

<低学年児童(1年生～3年生)にとって>

- ・あこがれの醸成(近くにいるよきモデル、めざす姿になる)
- ・学ぶ意欲の高まり(上級生に迫ろうとして努力する)
- ・フォロアーシップの醸成(自分の役割を果たしみんなと活動すると楽しい)

今後も異年齢集団による活動の場面や機会を設定することにより、学校集団としての活力を高め、児童一人ひとりが楽しく豊かな学校生活をおくることのできるよう努めていきたいと思っております。

保護者のみなさま、地域のみなさま、今月もご理解ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。